

新たな発見の旅へ

立命館大学 荒木穂積

田中昌人さんは、1967年の全障研結成時の中心メンバーの一人であり1981年まで14期にわたって全国委員長を務められた。1967年は重症心身障害児療育記録映画『夜明け前の子どもたち』（1968年完成）の撮影がすすめられていた年でもある。

私が田中昌人さんと出会ったのは、1969年近江学園を初めて訪問したときである。当時私の入学した京都大学は大学紛争下で教養部は封鎖されすべての授業が停止されていた。先輩たちが新入生の私たちに自主ゼミを提供してくれていた。その企画の一つで近江学園を訪問した。私は友人に誘われて参加したが、近江学園についても田中昌人さんについてもまったく情報をもたずに参加していた。このような私たちに対して4、5時間にわたって熱心に話をしてくださったことが強い印象として残っている。熱心で、手を抜かないで、真剣に向き合ってください、この時の印象は、その後もずっと変わらない。

*

『夜明け前の子どもたち』には、田中昌人さんは制作委員長として参加している。田中昌人さんが関わった記録映画や映像番組は数多い。『子

どもの発達と診断』シリーズでも、プロのカメラマンやプロデューサーと一緒に仕事をして数多く写真や映像をのこしている。1970年代に入ると、ビデオカメラが実践や研究現場に急速に普及しはじめる。田中昌人さんは、撮影した映像記録を何度か見直すことの大切さを機会あるごとに強調された。見直すと必ず新しい発見があるとよく言われていた。そして新しく発見したことを私たちに楽しそうに語ってくださった。

1995年3月京都大学を定年退官されたが、この時、「あなたの好きな時間は？」という質問に「発達を診るとき。必ず発見があるから」とこたえておられる。人間の発達過程は複雑で未解明の謎がまだ数多くのこされている。そのなかには見えているようで見えていない、見逃していることも多い。人間の発達の謎の解明と発見の旅はまだまだ続く。

*

田中昌人さんは、不正や権利侵害に対しては闘志の人であった。障害児・者の権利侵害に対しては妥協なく闘われた。その信念は人類社会の未来とつながっていた。先の質問で「あなたが絶対許せない悪いおこないは？」に対して「人類と共存し得



田中昌人さん

たなか まさと / 1932年～2005年。

1954年京都大学教育学部教育心理学専攻卒業。京都大学助手、滋賀県立近江学園指導係長を経て、京都大学へ。京都大学名誉教授、全国障害者問題研究会顧問（初代全国委員長）、人間発達研究所所長などを歴任。著書に『発達保障への道』（全国障害者問題研究会）、『障害のある人びとと創る人間教育』（大月書店）など。

ない行為およびその準備をすること」、「あなたのきれいなもの」に対しては「他人の時間を無駄にすること。金ころがし、物ころがし、土地ころがし、人ころがし、時間・空間のころがしをして他人を不幸におとしれながら金もうけをすること」とこたえておられる。地球温暖化、核兵器・化学兵器廃絶などとともに発達保障の権利が、第3世代の権利としてますますかがやく時代が期待されている。（あらき ほづみ）